

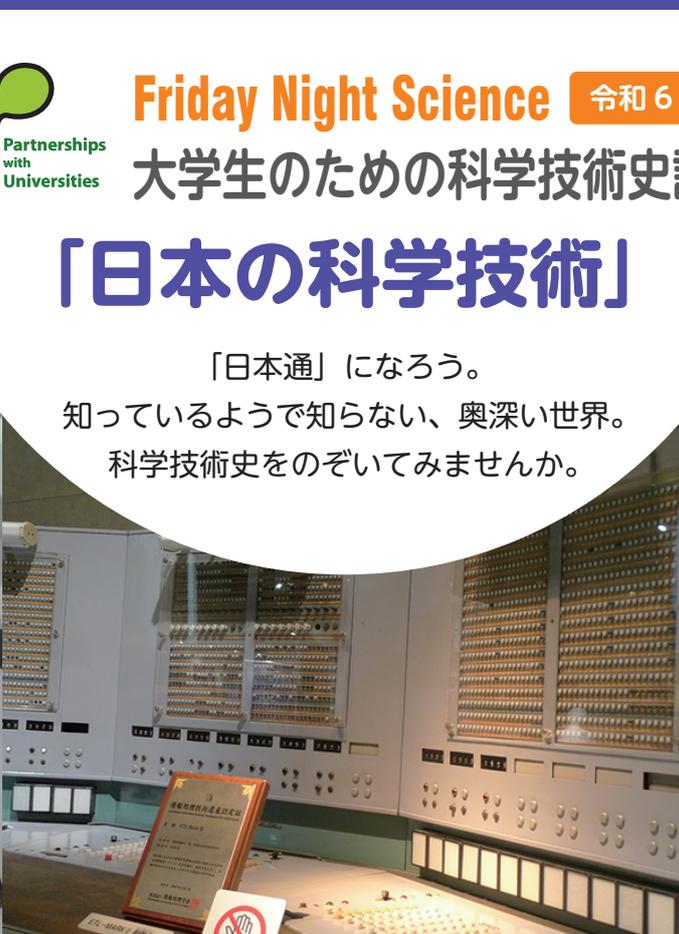
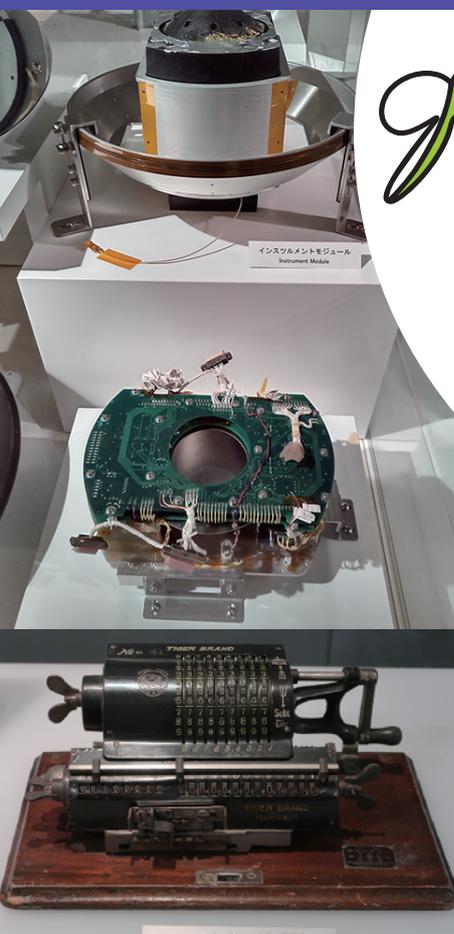


Friday Night Science 令和6年度

大学生のための科学技術史講座

「日本の科学技術」

「日本通」になろう。
知っているようで知らない、奥深い世界。
科学技術史をのぞいてみませんか。



前回受講者の声（一部抜粋）

歴史の一分野としての科学史に興味があり、今回専門家の話を聞けてとても勉強になり楽しかった。

展示を見るだけでは知ることのできないところまで知れて楽しかった。講座を思い浮かべながら展示を見たり、新たに興味を持った分野の展示を見たりと科博での楽しみ方が増えた。

遠隔でなければ参加することができなかったのが良かった。

最新の研究成果も踏まえた内容で、科学技術史の様々な視点を学ぶことができた。

自分が今まで関わることのなかった分野の話聞くことができ、視野を広げる良いきっかけになった。

いろいろな講師のそれぞれの研究分野についての話が面白かった。

自宅で受講できるので参加しやすかった。

対 象：主に大学生・大学院生・専門学校生
(一般の方も受講いただけます)

実施方法：Zoomを使用したオンラインでのライブ配信の講義
及び当日の録画を数日後からオンデマンド配信

配信期間：各講義日から1か月程度(予定)
※オンデマンド配信では質疑応答は行いません。
※国立科学博物館に来館して行う集合型講義ではありません。

開講期間：令和6年9月～11月まで 全6回
第2・4 金曜日 18:00～19:30

募集人数：100名程度

受講料：12,600円*大学パートナーシップ入会校の学生は6,300円
※この講座は6回の連続講座です。1回単位での受講はできません。

受講までの流れ

① お申込み

国立科学博物館 大学パートナーシップ「大学生のための科学技術史講座」のウェブページからお申込み下さい (WEB 受付)。
<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/technography/>

※頂いた個人情報は、本講座に付随する目的のみに使用いたします。

申込み受付開始：令和6年7月1日(月)(予定)

申込み締め切り：令和6年8月18日(日)

② 受講者決定

受講申込者には、8月26日(月)までに、受講の可否をメールでお知らせします。

応募者多数の場合には、「大学パートナーシップ」入会校の学生を優先させていただきます。あらかじめご了承ください。

③ 受講料のお支払い

受講料のお支払いなど詳細は、受講決定通知と共にご案内いたします。

★「大学パートナーシップって何？」

「私の大学はパートナーシップに入っているのかわからない」

そんなときは、こちらで一覧をご確認ください。

下記の国立科学博物館ウェブページからもご確認ください。
<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/>

※入会校は、随時更新されます。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

National Museum of Nature and Science Friday Night Science

大学生のための 科学技術史講座

「日本の科学技術」 Curriculum

カリキュラム



国立科学博物館は、自然史・人類史・技術史・科学史の中核的博物館です。これらの研究の成果については、教育事業としても積極的に発信しています。

この「大学生のための科学技術史講座」は、我が国の文化や社会を形作ってきた科学や技術の歴史にスポットを当てた講座です。

第1回 9月13日(金)

日本の科学技術・産業技術の概論

産業技術史資料情報センター長 前島 正裕



明治時代以降の日本の科学技術及び産業技術の発達を概観しつつ、電力や家電など、身近な技術をいくつか取り上げ、発達のそれぞれの様相に焦点を当て、概説します。

第2回 9月27日(金)

日本の近代建築

理工学研究所 科学技術史グループ研究主幹 久保田 稔男



洋の東西を問わず、建築は人類の生存にとって欠くことのできない存在です。世界各地で地域の気候に根ざした独自の建築が造られてきましたが、文化の交流に伴って、時に影響しあい、時に反発して建築も多様に変化しました。日本の建築も例外ではなく、特に明治以降、文明開化のかけ声とともに西洋の建築技術が流入し、伝統的な建築とは異なった、新しい建築が各地に建てられ、現在に至っています。上野公園にある建築を題材に、日本の近代建築の歩みを概観します。

第3回 10月11日(金)

ことばの科学史——日本と西洋科学の出会い

理工学研究所 科学技術史グループ 研究員 河野 洋人



日本は幕末・明治期の近代化の過程において西洋科学を受容していった、としばしばいわれますが、それまでの文化的・学問的实践に立脚しつつ、それとは異なる西洋の学問を理解し受け容れていくにあたっては、多くの困難や葛藤がありました。本講義ではこの一断面に、主として物理学関係の科学用語の変遷をたどることから、光を当てます。

第4回 10月25日(金)

日本の航空機保存・展示の現状

理工学研究所 客員研究員 長島 宏行



航空機はその時々最先端の科学技術の粋を集めた工業製品であることから、かつて博物館では科学技術の証としての展示が主でした。ただ近年では文化的価値を有する近代化遺産としてとらえられるようになり、保存展示だけでなくそのための修復の考え方も大きく変わりました。本講義では国外の博物館での事例を交え、日本での現状を紹介します。

第5回 11月8日(金)

産業技術史の視点からSDGsを考える

産業技術史資料情報センター 参事役 亀井 修



産業技術史の視点から SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) について考えます。地球の行く末を人が意識しなければならない時代 = アントロポシオン (Anthropocene、人新世) と、それをもたらした技術・科学・産業をキーワードにして、近未来を含む現代の科学技術を概観します。

第6回 11月22日(金)

博覧会からみる日本の近代化と科学技術

理工学研究所 科学技術史グループ長 沓名 貴彦



博覧会は、日本の近代化に大きな役割を果たしました。しかし、上野公園がその中心地であったことは、あまり知られていません。上野公園で開催された博覧会を事例に、博覧会から日本の近代化と科学技術について概観します。

※カリキュラムは変更されることがあります。

所属等は令和6年4月現在のものです。

●お問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部学習課
「国立科学博物館 大学パートナーシップ」担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 TEL : 03-5814-9877
E-mail : upartner@kahaku.go.jp